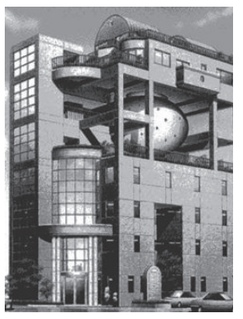
日本国民への提言 ㊾



たまごビル
院長 石垣 邦彦

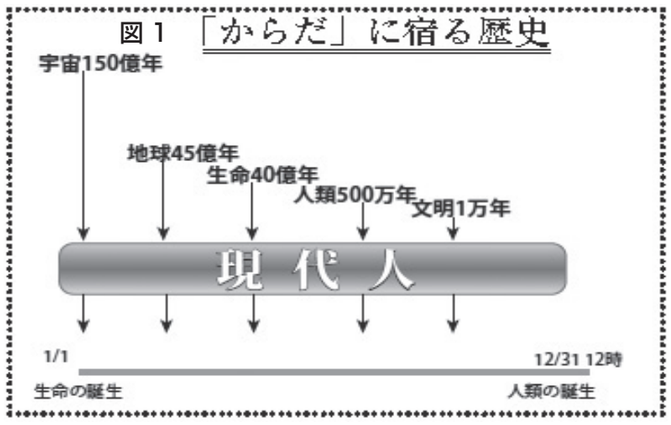
〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072（991）3398
FAX072（991）4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気のしくみを考える

人は楽しむために生まれてきた

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部がやわらかい」状態＝「人類の宝」を生かし、人類があるべき方向に指し示す必要がある文明（図1）を、人類のあるべき方向に指し示す必要があります。「2025年日本国際博覧会＝大阪・関西万博」については、この理念を柱にして「いのち輝く未来社会のデザイン」にすることを念じています。世界に普及することを願っています。



人生の船長である

高齢者よ、立ち上がれ

【Ⅰ人類の創意工夫の産物である文明は、変化する。人類の「からだ」の「しくみ」は、変化しない】

『「からだ」に宿る歴史』図1をご覧いただきたい。文明が生まれて約1万年と言われています。なぜ1万年前から飛躍的に文明が発展してきたのか。ある学説によると地球規模の温暖化が約1万年前からはじまったのが一番の原因だと考えられています。

それまでは、狩猟採集の定住しない生活をおくっていた人類が、温暖化のお陰で一定の地域に住み農耕牧畜がはじまり、フローのその日暮らしの生活から富が蓄積されるストックの生活をおくられるようになり、生活に余裕ができたからだと言われています。そのため、創意工夫するにも余裕が生まれてきたのが大きな原因であると考えられています。

今後、特にAI（人工知能）をはじめとする科学技術はどんどん発展してゆくでしょう。しかし、ここで忘れてはいけないことがあります。「生きもの」である人類の「からだ」の「しくみ」は1000年や2000年で変わるものではないという事実です。

わたしたちが崇拝するお釈迦さんやキリストさんやマホメットさんの「からだ」の「しくみ」は全くと言っていいほどわたしたちと同じ「しくみ」です。その原因は、1万年前からの温暖化によって人類の「からだ」の「しくみ」を変えなくとも「いのち」をつなぐことができていたということです。

しかし、お釈迦さんの時代と比較すると、わたしたちが創意工夫した文明は、2600年前とは大違いです。人類の創意工夫によって、月にも行けるようになり飛行機に乗って海外旅行もでき、ダイナマイト・原子力の利用・電気・ガス・高層ビル等々。

人類の創意工夫による科学技術をはじめとする文明はすばらしい進歩をみせています。

これからもっともっと発展してゆくでしょう。人類の創意工夫には、科学技術だけではなくいかに生きるべきかという哲学・宗教・思想・政治・経済活動など多義にわたります。

しかし、人類の「からだ」の「しくみ」は変わっていません。

とすると、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」をいかに捉えればいいのでしょうか。

「いのち輝く」とは「生きもの」である人類の「いのち」であり、「未来社会」とは来るべき100年前後の未来であり、その未来において文明は変わるが、「からだ」の「しくみ」は変わらないということです。

「デザイン」とは、そのデザインの対象者は「生きもの」である人類です。

まとめると、人類の「いのち」を輝くものにするには、1000年や2000年で変わらない人類の「からだ」の「しくみ」を中心に据えて、未来社会をデザインすることであることが分かります。

人類の創意工夫による文明の一つであるAI（人工知能）も政治体制も今後どんどん変わってゆくものです。発展してゆくといってもいいでしょう。しかし、その発展は大きな矛盾を含みつつ変化してゆくのです。

例えば、ダイナマイト。例えば、原子力。生きる上で大きな力となるとともに、大きな問題をはらんでいるのです。つまり、大きな利便性とともに大きな危険性を含んでいるのです。

そのような人間の創意工夫による文明に対する歯止めが必要です。その歯止めとなるには、人類が生きる上で基本となる基準が必要です。

また、人類の創意工夫の目指すものは、いかに「いのち」をつなぐかということを、より安全に、より効率よく確保することです。「いのち」をつなぐために、一番根本的なことはどういうことでしょうか。

【Ⅱ「からだ」の「しくみ」とはなにか】

人類が生きる上での基本とはどういうことでしょうか。

「生きもの」が生きる上で必要となることはどんなことでしょうか。

「からだ」の「しくみ」は1000年や2000年で変わらないと述べました。そのとおりです。お釈迦さんと現在のわたしたちとはなんら「からだ」の「しくみ」は変わりません。この事実は大きいです。しかし、先ほど述べたように人類が創意工夫した文明には著しい変化があります。しかもその変化には利便性と危険性を同時に含みます。

第一次大戦以来、幾多の戦争がありました。テロもあります。わたしたち人類が創意工夫したダイナマイト・原子力爆弾・飛行機・政治社会体制などがなければもっと被害を少なくできたでしょう。文明そのものがもつ矛盾です。

そのような人類が創意工夫した文明と「からだ」の「しくみ」はどういう関係にあり、どうすれば人類の破滅に至らないようにできるかを考えてゆきたいと思います。

とすると、わたしたちが生きる上での基本となる「からだ」の「しくみ」とはなにかということになります。

【Ⅲ「からだ」の「しくみ」の基本は「入り・出」（図2）】

わたしたちの祖先である原始単細胞と40億年にわたってつちかわれ、進化した60兆の細胞を有するわたしたち人類の「からだ」とには共通することがあります。それは、原始単細胞であっても60兆の細胞を有する人類の「からだ」であっても、それ自身だけでは生きてはゆけないということです。

つまり、原始単細胞であっても60兆の細胞を有する人類の「からだ」であっても外から必要なものを取り入れ、それを消化・吸収し・不要な物を「からだ」の外に出して、はじめて生きてゆけるのです。

そのため、詳しいことは省きますが動物には発生学上に原腸陥入という現象があります。平たく話をすると、外から必要なものを取り入れ、消化・吸収し、不要な物を外に出すということをより効率よく安全にするために「生きもの」は主として進化してきたと考えられます。

つまり、この「入り・出」をより安全に効率よくするために「種」によっていろいろと進化してきたものと考えられます。

チンパンジーと人類の遺伝子の違いは、たった2パーセントと言われていますが、地域差などによる「入り・出」の条件の違いによる進化の度合いの違いがその差、チンパンジーと人類の遺伝子の違いという差になったものと思われます。

決してこうなろうと決意しただけで、あるいは偶然に偶然が重なっただけで進化したものではありません。

「いのち」をつなぐ必要に迫られ、取り入れ・消化・吸収し排泄する必要があったために、そのことをより安全に効率よくしようとして主に進化してきたのです。そしてその違いが遺伝子上では2パーセントの違いになったものと思われます。

【Ⅳ「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態が生きる上で大事なこと】

原始単細胞でも60兆の細胞を有する人類の「からだ」であっても、「入り・出」は同じ「しくみ」です。その「しくみ」は、細胞膜を通して外から必要なものを取り入れ、細胞内での移動を経ながら、消化・吸収し、不要な物を排泄するところにあります。この作用については、原始単細胞も60兆の細胞を有する人類の「からだ」にもなんら差異はありません。もちろんチンパンジーとも、牛・猿・猫・犬・魚・鳥などとも違いはありません。

そして植物とも原則的に違いはありません。

つまり、生きる上で、基本の「はたらき」である「入り・出」が一番大事であり、その「入り・出」の「はたらき」がスムーズに「はたらく」状態が生きる上で大事なこととなります。

【Ⅴ「入り・出」をより安全に効率よくすることが進化】

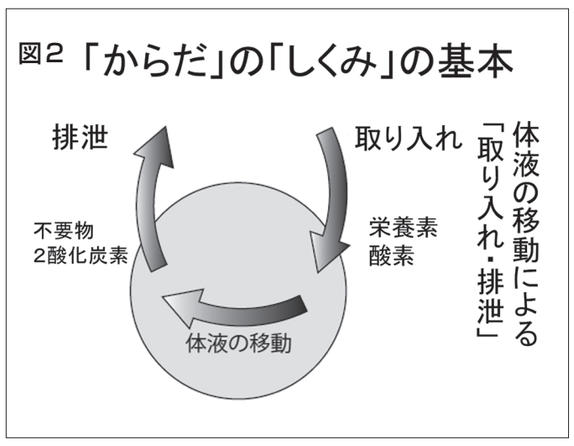
生きるには、原始単細胞にとっても60兆の細胞を有する人類の「からだ」にとっても「入り・出」が基本です。

この「入り・出」がスムーズに「はたらく」ように原始単細胞の「からだ」の「しくみ」も、60兆の細胞を有する人類の「からだ」の「しくみ」も目的をもって活動しています。

つまり、進化とはこの「入り・出」をより安全に効率よくしようとする途中結果です。

そのため、取り入れるために原始の単細胞であれば細胞膜が取り入れをする役割をにない変化し動きます。

「からだ」の中に取り入れられたものは、体液の移動によって消化・吸収され、またその体液の移動によって「からだ」の外に細胞膜を通して排泄されるものと思われます。



これからもっともっと発展してゆくでしょう。人類の創意工夫には、科学技術だけではなくいかに生きるべきかという哲学・宗教・思想・政治・経済活動など多義にわたります。

しかし、人類の「からだ」の「しくみ」は変わっていません。

とすると、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」をいかに捉えればいいのでしょうか。

「いのち輝く」とは「生きもの」である人類の「いのち」であり、「未来社会」とは来るべき100年前後の未来であり、その未来において文明は変わるが、「からだ」の「しくみ」は変わらないということです。

「デザイン」とは、そのデザインの対象者は「生きもの」である人類です。

まとめると、人類の「いのち」を輝くものにするには、1000年や2000年で変わらない人類の「からだ」の「しくみ」を中心に据えて、未来社会をデザインすることであることが分かります。

人類の創意工夫による文明の一つであるAI（人工知能）も政治体制も今後どんどん変わってゆくものです。発展してゆくといってもいいでしょう。しかし、その発展は大きな矛盾を含みつつ変化してゆくのです。

例えば、ダイナマイト。例えば、原子力。生きる上で大きな力となるとともに、大きな問題をはらんでいるのです。つまり、大きな利便性とともに大きな危険性を含んでいるのです。

そのような人間の創意工夫による文明に対する歯止めが必要です。その歯止めとなるには、人類が生きる上で基本となる基準が必要です。

また、人類の創意工夫の目指すものは、いかに「いのち」をつなぐかということを、より安全に、より効率よく確保することです。「いのち」をつなぐために、一番根本的なことはどういうことでしょうか。

【Ⅵ原始単細胞の「入り・出」の「はたらき」を紐解き、各種臓器の成り立ちを推測する（図3）】

「生きもの」の「いのち」をつなぐ「入り・出」という現象をさらに安全に効率よくするために、専門性を有する臓器が生まれてきました。人類の「からだ」の「しくみ」を例に出し、特に消化器系の流れを観てゆきましょう。

外から取り入れるものが「からだ」の中に取り入れていいものかどうかの判断が一番大事なことです。もしも、毒性のあるものを「からだ」の中に取り入れれば「からだ」は「いのち」をつなぐことができなくなります。

そのため、目で、鼻で、唇、舌で取り入れていい物かどうか確認をとります。もちろん耳で敵が近づいていないかを確認し、「からだ」の安全を確保しつつ行われています。顔の表面だけでもこれだけの「はたらき」をしているのです。この情報のコントロールに脳の発達が必要でした。

歯で噛み砕き各種酵素がでて消化がはじまります。胃では胃酸が出て内容物が腐らないようにしてゆきます。胃の上部1／3が動き出し物理的に細かくくだいてゆきます。内容物が1ミリ以下になると胃から十二指腸に出てゆき、さらに分解され小腸で吸収されることになります。

また、肝臓できらに分解・加工され、心臓をはじめとする循環器系の流れにのって全身をめぐり最終的に腎臓に流れ、必要な物は再利用し、不要なものは小便として排泄されることになります。

当然、大便として排泄されます。

「入り・出」をより安全に効率よくするために循環器・呼吸器・自律神経・運動器・内臓全般等の臓器ができたのです。

例えば、魚類から陸上の生活もおこなう両生類（カエルなど）になると、腸から肺ができてきます。酸素をより多く取り入れ、二酸化炭素をスムーズに排泄する必要があるからです。

地球環境の変化とともに、必要とされる外から取り入れる・排泄する内容物の変化に応じて肺ができたのです。「いのち」をつなぐために新たな肺と言う臓器ができたのです。

他の臓器についても同じことが言えます。

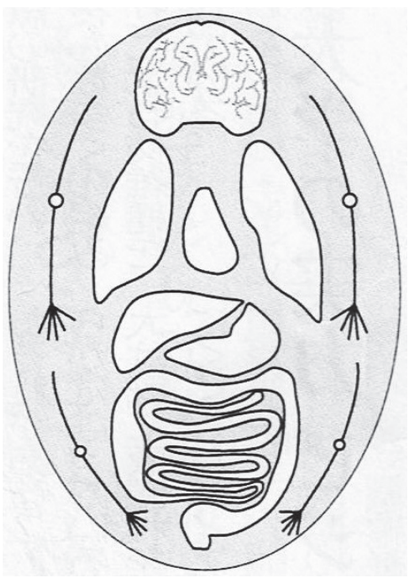
【Ⅶ「入り・出」がスムーズになると、「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」がととのう】

人類にも「生きもの」の特徴として、「生まれ・成長し・子孫を育て・老化し・死にゆく」変化する「いのち」の流れがあります。

その流れには、「いのち」をつなぐという大切な役割があります。意識しようとしまいと、わたしたちは「いのち」をつなぐために生きています。

わたしは、この「いのち」の流れる「しくみ」がスムーズに運ぶ時に「からだ」にあらわれる特徴を発見しました。

その特徴とは、「上腹部がやわらかい」状態です。その時「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」がととのうことを発見しました。



【Ⅷ「老化」と「死」は「いのち」をつなぐ大切な役割＝高齢者の使命】

そして、この特徴＝「上腹部のやわらかさ」があると「元気で生きれ・当然、病気の予防となり・不幸に病となった場合は、的確な治療となり、復元力を失っている「からだ」には、現代医学的なリスクをともなう治療と併用し、その効果を最大限に引き上げ、生かすことができ・確かなケアーとなり・生き生きとした老化をなし・穏やかな死に至ることができる」ことを発見したのです。

老化と死は「いのち」をつなぐ役割です。老化と死には「いのち」をつなぐ大切な役割があるのです。

【Ⅸ人生の船長である高齢者よ、立ち上がれ】

年をとってはじめて見えてくる事柄があります。「老化」と「死」の役割についてもそうです。人生経験を経た高齢者であるからこそ、しなければならないことがあります。それは「いのち」のつなぎの役割です。

例えば、船が難破して沈みかけている時に最後に降りるのは乗客の「いのち」をつなぐ役割をもつ船長です。

高齢者にとっても同じことが言えます。船が難破したときに最初に降りるのは女・子ども・高齢者とよく言われますが、高齢者は最後に降りるべきものです。人生の船長である高齢者は次の世代に「いのち」をつなぐ大切な役割があるからです。その役割を担うことによって、本当に高齢者が生きがいを感じ、尊敬され、家族・社会に貢献できるからです。ありがたいことです。

上腹部をやわらかくする